

# 日本及び中国の母親への教育に関する アンケート調査結果 2010

－日本よりも中国の方が教育熱心な傾向に－

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて未就学児をもつ母親を対象にアンケート調査を実施した。

1. 調査期間：2010年5月
2. 調査対象：【日本】全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名  
【中国】北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名
3. 調査方法：インターネット形式

注：当該調査結果においては、「北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名」の調査結果を、便宜上「中国」として表記している。また、日本・中国のサンプル数に開きがあるため、中国については参考値とする。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 中国の母親は圧倒的に“学力向上”への関心が高い

育児で関心の高いことについては、日本では「生活習慣（早寝・早起きなど）」が最も多く、53.4%であったのに対し、中国では67.3%が「学力向上」に関心があると回答した。

### ◆ 中国の未就学児は8割以上が習い事をしている

3～6歳の未就学児の習い事については、日本は57.1%と半数以上が習い事をしていないという結果であった。一方、中国で習い事をしていないのは12.0%のみであった。

### ◆ 中国では7割が生活レベルを落としてでも教育費を確保する意向

将来的な教育スタンスについて、中国で最も多かったのは「生活レベルを落としてでも教育費を確保」の70.7%、次いで「子供の勉強には親の介入は不可欠」の57.3%であった。

### ◆ 資料体裁

資料名：「子供市場総合マーケティング年鑑 2010年版」  
発刊日：2010年6月29日  
体裁：A4判 545頁  
定価：115,500円（本体価格110,000円 消費税等5,500円）

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝  
設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

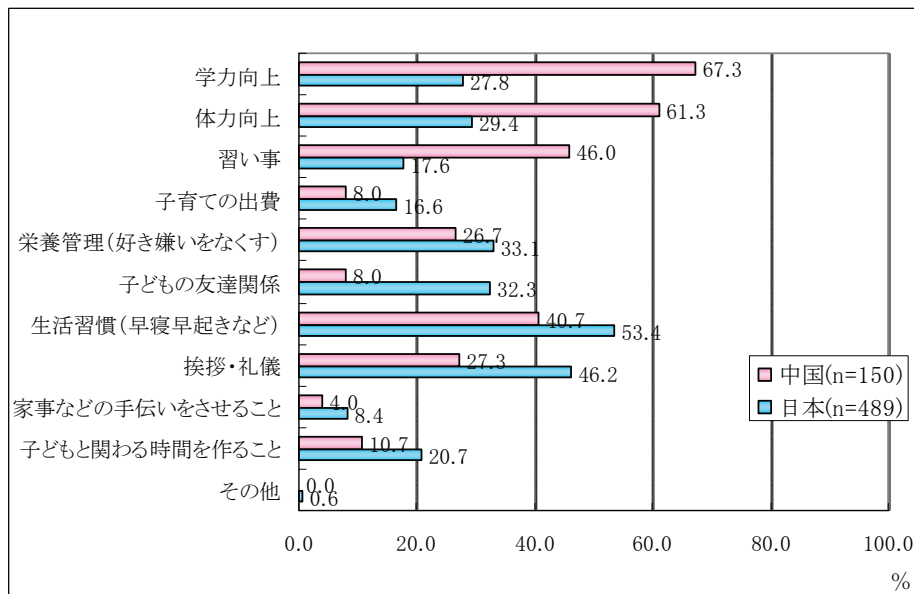
【 調査結果の概要 】

1. 育児で関心の高いこと ～中国では学力向上への関心が日本に比べ圧倒的に高い

育児において関心の高いこと上位 3 つを選択してもらったところ、中国では「学力向上」(67.3%)、「体力向上」(61.3%)、「習い事」(46.0%)など、子供の教育に直結した分野を重視している人が多かった。一方、日本では「生活習慣」(53.4%)、「挨拶・礼儀」(46.2%)、「子供の友達関係」(32.3%)など身の回りに関することへの関心が高かった。(図1参照)

また、1位～3位まで順位をつけてもらったところ、中国では「学力向上」を1位に挙げている人が39.3%で、本調査においては3人に1人は子供の学力向上を最も重視している結果となった。(図2参照)

図1. 育児で関心の高いこと

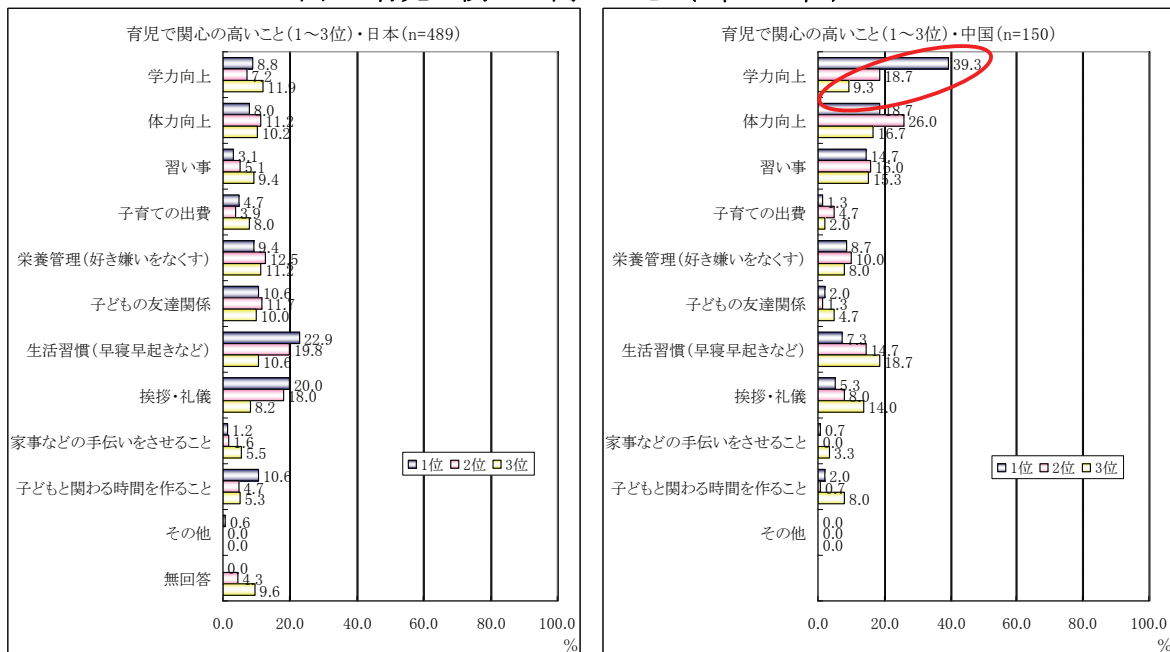


矢野経済研究所作成

注1：日本の集計対象は、全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名、複数回答

注2：中国の集計対象は、北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名、複数回答

図2. 育児で関心の高いこと (1位～3位)



矢野経済研究所作成

注3：日本の集計対象は、全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名、1～3位の各項目単数回答

注4：中国の集計対象は、北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名、1～3位の各項目単数回答

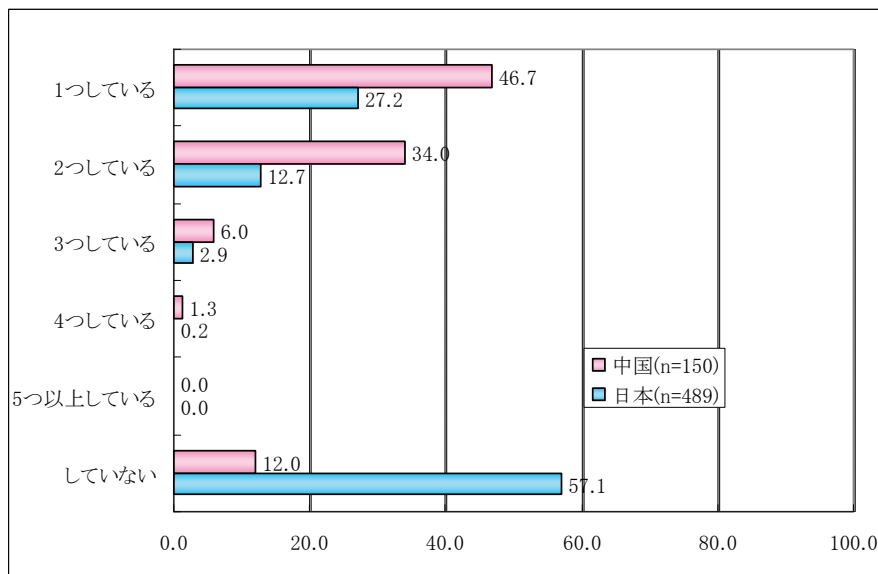
## 2. 習い事の状況 ～中国の方が習い事に対して熱心

3～6歳の未就学児の習い事の状況を見ると、日本は57.1%と半数以上が習い事をしていない。一方、中国で習い事をしていないのは12.0%に過ぎなかった。中国では、複数習い事をしているケースも日本より多く、習い事1つの家庭が46.7%、2つは34.0%、3つは6.0%という結果であった。複数の習い事をしているのは、日本では15.8%であったが、中国では41.3%となっており、本調査においては中国では早期教育が熱心に実施されているということが示唆される結果であった。（図3参照）

日本では、子供の習い事として水泳が最も多いが、中国では、水泳の比率も高いものの、日本に比べるとそれほど定番化していないとみられる。本調査ではそれよりも、「幼児教室（知育など）」の方が人気が高く、31.8%が幼児教室の習い事をしているという結果であった。

また、「語学・外国語会話」は、日本も中国も20.5%で、語学教育は共に幼児の習い事として人気があるものとする。（図4参照）

図3. 習い事の有無と数

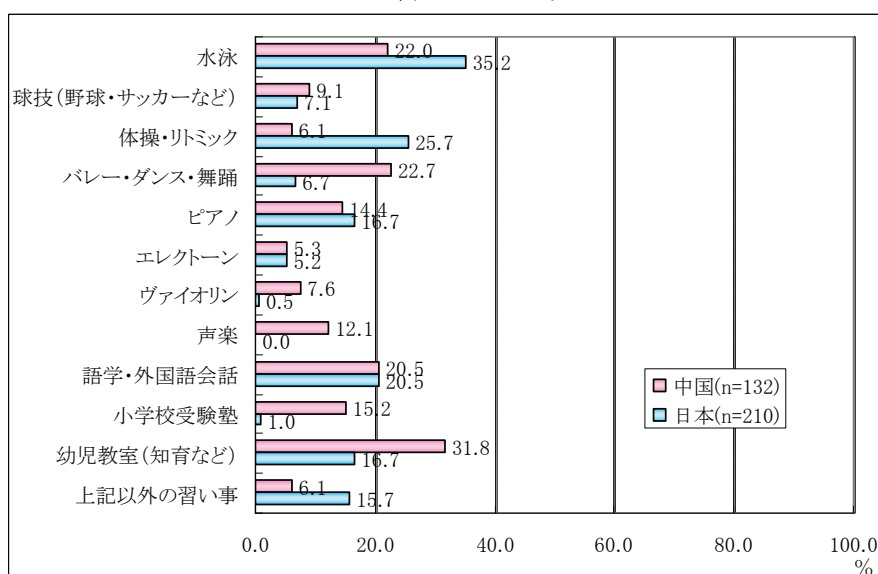


矢野経済研究所作成

注5：日本の集計対象は、全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名、単数回答

注6：中国の集計対象は、北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名、単数回答

図4. 習い事の種類



矢野経済研究所作成

注7：日本の集計対象は、全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名のうち

「習い事をしている」と回答した210名、複数回答

注8：中国の集計対象は、北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名のうち、

「習い事をしている」と回答した132名、複数回答

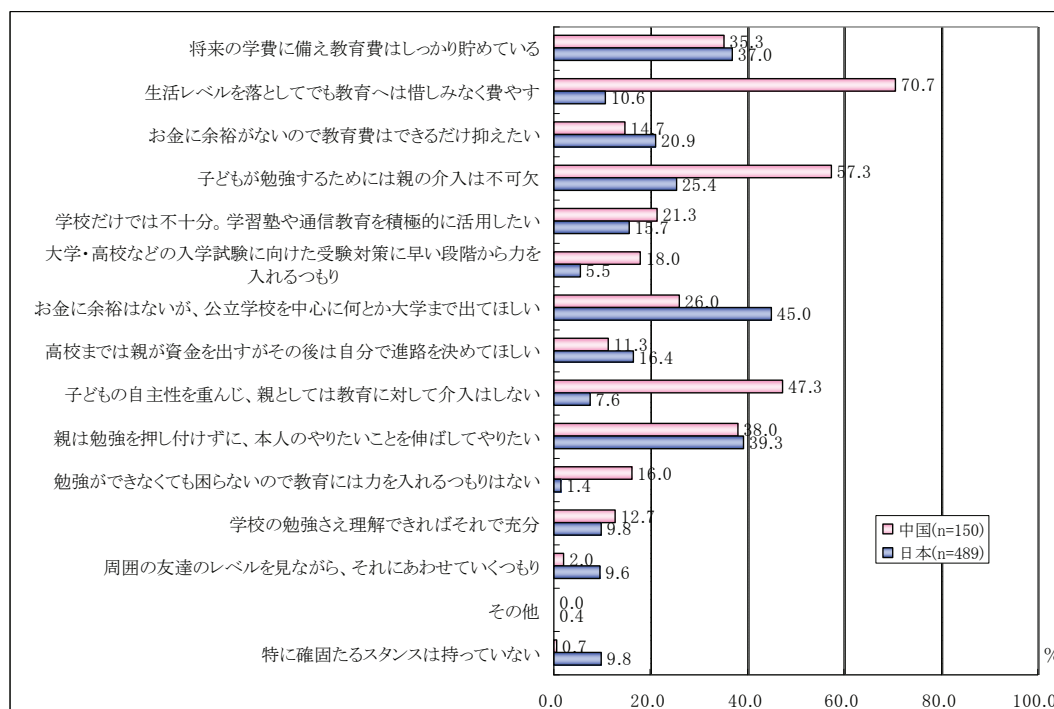
### 3. 将来的な教育スタンス ～中国では7割が「生活レベルを落としてでも教育費を確保」

将来的な教育スタンスについて、中国で最も多かったのは「生活レベルを落としてでも教育へは惜しみなく費やす」の70.7%、次いで「子供が勉強するためには親の介入は不可欠」の57.3%であった。日本では、「生活レベルを落としてでも教育へは惜しみなく費やす」と回答したのは10.6%に過ぎず、サンプル数が異なるため一概にはいえないものの、中国とは大幅な開きが見られ、中国における教育熱の高さが示唆される結果であった。

一方で、中国の回答を見ると、「子供の自主性を重んじ、親としては教育に対して介入はしない」との項目は47.3%で3番目に高く、また「勉強ができなくても困らないので教育には力を入れるつもりはない」との回答も16.0%で日本より高かった。本調査結果からは、中国では、多くの人は教育に対して熱心であるが、その取り組みには大きな差が生じていると考える。一方、日本では、「お金の余裕はないが、公立学校を中心に何とか大学まで出てほしい」(45.0%)や「親は勉強を押し付けずに、本人のやりたいことを伸ばしてやりたい」(39.3%)が上位に来るなど、かつての“教育ママ”的母親は鳴りを潜め、全体的に“中間志向”の様子が垣間見られる。

また、「特に確固たる教育スタンスは持っていない」と回答した人は、日本9.8%、中国0.7%と、本調査においては中国では3～6歳の未就学児に対して、教育ポリシーをほとんどの人が持っていることが分かる。(図5参照)

図5. 将来的な教育スタンス



矢野経済研究所作成

注9：日本の集計対象は、全国の3歳～6歳の未就学児をもつ母親489名、複数回答

注10：中国の集計対象は、北京・上海の3歳～6歳の未就学児をもつ母親150名、複数回答

### 4. 総評：中国では、一人っ子政策を背景に子供に対する教育熱が高まる傾向に

昨今の中国では学歴社会が進行しており、貧富の差から教育に費やす金額に差はあるものの、幼児期から熱心に取り組む親が多いといわれる。本調査においても、日本に比べ教育に関する関心が高いという結果であった。中国では一人っ子政策により親の期待が一人の子供に集中しており、それが結果として教育に対する関心の高さに繋がっているとみられる。